

各委員から事前にいただいたご意見等について

委員名	ご意見等
神谷 委員	<p>P76 第5章第5節 食育の推進について</p> <p>2 具体的な取組 (1) 食を通じた家族のふれあい ② 「第3日曜日(家庭の日)は家族みんなで“いただきます!”の日」の普及・定着化を図ります」とあるが、家族みんなで食べる日をもっと増やせないだろうか。むしろ毎日一緒に食べることを目標にして欲しいと思う。というのも、先日、図書館でたまたま手にとった「なぜひとりで食べるの 食生活が子どもを変える」(足立己幸、NHK おはよう広場班 著 昭和58年)という本を読んで衝撃を受けた。この本はNHK特集「こどもたちの食卓」、「おはよう広場」で放送された素材をもとに加筆されてできあがった報告である。その本には子どもたちの寂しい食事風景が描かれていた。大きいテーブルに自分1人とパンと牛乳だけ、カップラーメンだけの子どももいた。食事は待ち遠しくなかつたと書いてあった。本来食事は家族で一緒にとる楽しいものである。親は片親や仕事でいないのではなく 家にも1人食べている子がいた。ごく普通の家族での風景なのだ。この本ができたのは昭和58年である。今から約30年前に作られた本で、食育に関して問題視されていた。この本で医師で福岡教育大学教授の森崇先生は「食欲は人間の愛情の中で最も基本的なこと」と指摘している。親子のつながりをもつにはせいぜい中学生になるころまでが大切で、食事を一緒にとることが重要だとされている(P185~189)。朝食を食べればOKではなく、家族と一緒に食べ食事を待ち遠しいと感じさせることが望ましい食習慣の形成につながるのではないだろうか?アンケートをとることは学校の負担になると思いますが、現状を把握し、食生活の質を上げることは生活の質の向上に必ずつながると思います。子どもたちに家での食事の風景を描かせてみるのもいいかもしれません。</p>
渡部 委員	<p>めざす姿と具体像を盛り込んだことで、より身近な目標ができたと思いますし、これを読んだお母さんお父さんが、県を挙げて応援してもらっているような気持ちになれることを願います。</p> <p>課題は、これからたくさんの方にこの計画の内容を知ってもらうこと。それぞれが行動に移していけば、大分県の子育てはもっと充実したものになると思います。</p>

事前提出意見

椋野美智子

意見等への対応について

(資料1) 通番3 児童買春や児童ポルノについて p 9 8 第7章第4節「子どもの非行を防ぐ環境づくり」に記述してありますが、これら「子どもの福祉を害する犯罪の取り締まり」(2(1)①ウ)は、p 9 6 第3節「子どもの安全を守るまちづくり」2(2)「子どもを犯罪から守る取り組み」に記載すべきではないでしょうか。第4節2(1)③の「ネット安全教育の推進」も同様だと考えます。

(資料1) 通番45 子育て世帯に必要なのは広さや子ども部屋などで必ずしもバリアフリーが最優先ではないように思います。また、県営住宅以外に住んでいる県民の方が多数です。したがって、数値目標として「バリアフリー化した県営住宅の割合」を残すとしても、他にも指標があった方がいいと考えます。住宅調査等で適当な指標はありませんか。

(資料1) 通番46 親子一緒に鑑賞できることはいいことですが、一方で、子どもと一緒にだと子どもの世話に追われてゆっくり鑑賞できない、一人で鑑賞したいという方もいらっしゃると思います。親子一緒に、と決めつけられない方がいいのではないのでしょうか。可能であれば、一時預かりが近くにあるといいと思います。

追加意見

(資料2) p 4 6 12月16日の安心・活力・発展プラン2005推進委員会で、就職率はよくなったけれども離職率が問題という意見がありました。離職率も指標に加える必要はありませんか。

(資料2) p 6 2 (2) 引きこもり等の若者への支援

○ 保健所、生活困窮者自立支援制度の枠組みでの総合相談、就労準備支援等との連携を記載した方がいいのではないのでしょうか。

引きこもりの実態調査も今後必要だと考えます。秋田県藤里町では引きこもりの人が18歳から55歳までの町民1293人の8.74%、113人という調査結果もあります。

○ 高校で不登校から中退した者に対する対応はどこにあるのでしょうか。高校は義務教育ではないものの、高校中退では安定就労が難しく、そのままニートや引きこもりになるリスクが高いです。何らかの対応が必要ではないのでしょうか。高校は県教育委員会の所管なので市町村としても連携が難しいとの意見も聞きます。